

素敵な教職員の皆さんに、ONとOFFのスマートスタイルについてお聞きしていきます。

リレーでつなぐ ワーク・ライフ・バランス

work life balance

vol.15

育児で大変だった頃

私の現在のワーク・ライフ・バランスについて書くより、育児で忙しかった時期のワーク・ライフ・バランスについて書いてみようと思います。私には子供が三人いますが、上の二人は年子だったので、この頃の育児が一番大変でした。当時私は大学では教職員(技官)、妻は中学校の教員をしていたので、子供は保育園にお世話になりました。保育園は大学の近くだったので、送り迎えは私の役目でした。この頃は紙おむつが始めの頃で、家の子供には紙おむつを使いました。ところが保育園では布おむつを使用していたので、毎朝、子供を保育園へ連れていくと保育園の布おむつに替えなければいけません。おむつ交換は家では普通のこととしてやっていたのですが、最初、多くのお母さん達に混じっての行為が何とも気恥かかったものです。しかし、3日もすると周りと溶け込みました。職場では周りの理解もあり、仕事を終えて保育園への迎えは大体夕方6時前には行けましたが、時々6時を過ぎることもあり、6時を過ぎると延長保育に入るため子供達はおやつ時間の入りです。私達は延長保育を申請していなかったため、他の子供達がおやつをもらっているのを尻目に子供を保育園から連れ出すのが難儀で、子供はなかなか部屋を出ようとしません。すると先生が家の子供にもおやつを与えてくださいました。このようなことがあってから、私は迎えにはいつもお菓子を用意して行くようになりました。その内に仕事も6時に切り上げるのが難しくなってきたので、延長保育の申請を行いました。しかし、公務員は夕方5時に仕事が終わるのが世間一般の常識だったので、6時を過ぎて仕事をする理由付けに苦労しました。家に帰ってから大変で、子供は腹が減っているから放っておくとどんどんお菓子を食べる。お菓子でお腹を満たしてしまうのが早い、夕食作りが早い競争です。そのうち妻が帰宅してくれると、父子ともどもほっとしたものです。この頃の私の子育ての様子は、KNBの「小さな手大きな目」という15分番組で放送されました。番組中、富山女子短期大学(現在の富山国際大学)の先生がいろいろとコメントをされていて、その中で私が最も印象に残っているのが、「子育てをされていて親がイライラするのは自分に問題があ

大学院理工学研究部(理学) 准教授

水島 俊雄

略歴

1974年富山大学文理学部卒業。富山大学理学部物理教室の教職員(技官)として採用。1993年助手、1999年横浜国立大学で博士(工学)取得。2002年助教授、2007年准教授として現在に至る。



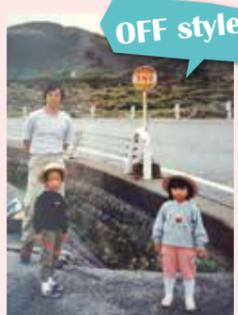
ON style

るのです。」と言われたことでした。この放送で一番笑いを誘ったのは、私の子供達を連れて帰った場面で、「お母さんはまだ帰っていません」という字幕が流れたときです。この頃は仕事と育児は時間的には同じであるけれど、気持ちとしてはかなりの部分育児が占めていました。

やがて、上の子が小学校へ行くときになってひとつ気づかされたことがあります。それは小学校から帰宅すると家には誰もいないことでした。特に夏休みになると、子供だけで過ごさせる時間が長いことが気になりました。そこで、私が昼に家へ急いで行って適当な昼ご飯を作り一緒に食べ、また仕事に戻るということをしました。学童保育があればいいとどれほど思ったことか。今、富山大学では7月下旬に職員の子供達を対象に2週間程度、学童保育を行っています。それに少しでも役立てばいいかと思ひ、学童保育の場で簡単な科学実験をやらせてもらっています。

その後、私は教職員から助手となり、1999年にドクターを取得してから、頭の中はかなり教育・研究のことが占めるようになりました。そして今、その当時に振り返り、大学での仕事を終えた後の気持ちの切り替えが以前よりじょうずになり、「余暇」を持つようになったのは子育ての経験があったからだと思っています。しかし、以前から比べると、大学で研究に充てる時間が少なくなっており、そのことから研究に対する心の「余裕」も少なくなっていると感じています。ただ心の「余裕」は精神的なものですから、時間を多く掛ければいいというものではないのでしょう。じょうずな仕事配分を行い、学生を指導する傍ら、学生と研究について一緒に考える気持ちを少しでも確保すればいいのかと考えている昨今です。

立山登山に行く途中の天狗平で。子供が小さい頃はよく山に連れて行きました。



OFF style

数字で見る 富山大学のいろいろ

富山大学の任期を付さない職に就く女性教員比率の推移

右の表は、富山大学における任期を付さない職(承継ポスト)に就く教員又は、承継ポストであっても任期を付さない職の適用がなく、いわゆる再任可能な任期制の適用を受ける職に就く教員の在籍数及び女性教員比率を示しています。合計数から見た女性教員比率は平成24年度では16.6%であり、その後は若干の上昇があり平成28年度では17.9%を占めており、1.3%の上昇が見られます。職階別に女性教員比率を見ると平成28年度において、教授は11.7%と最も低く、他の職位は約20~23%程を占めています。また、職階別に平成24年度から平成28年度までの上昇率を見ると、全ての職位で上昇が見られており、特に講師が最も上昇しており上昇率は6.2%となっています。今後の女性教員の活躍が期待されます。

任期を付さない職に就く教員の職階別在籍数(各年度5月1日時点)

		在籍数(人)				
		平成24	平成25	平成26	平成27	平成28
教授	女性	36	37	35	33	35
	男性	293	290	290	273	265
	女性比率(%)	10.9	11.3	10.8	10.8	11.7
准教授	女性	49	50	51	48	49
	男性	202	200	192	196	196
	女性比率(%)	19.5	20.0	21.0	19.7	20.0
講師	女性	11	9	13	18	17
	男性	57	63	57	60	59
	女性比率(%)	16.2	12.5	18.6	23.1	22.4
助教	女性	43	46	45	41	43
	男性	148	153	147	144	142
	女性比率(%)	22.5	23.1	23.4	22.2	23.2
合計	女性	139	142	144	140	144
	男性	700	706	686	673	662
	女性比率(%)	16.6	16.7	17.3	17.2	17.9

発行

富山大学男女共同参画推進室

〒930-8555 富山市五福3190

E-mail smart@ctg.u-toyama.ac.jp

TEL 076-445-6146 / FAX 076-445-6063

URL http://www3.u-toyama.ac.jp/kyodoss/



リサイクル適性
この印刷物は、印刷物の廃へリサイクルできます。



富山大学男女共同参画推進室

News Letter

Office for gender equality, University of Toyama

TOPICS

- 新メンバーの紹介 ■ 活動報告
- 今注目のことば ■ リレーでつなぐワーク・ライフ・バランス
- 数字で見る 富山大学のいろいろ

2016.10
第15号



メンバー紹介

男女共同参画推進委員会新メンバーの紹介

男女共同参画推進体制強化のため8月より7名の新

メンバーが追加となり、委員会委員はこれまでの18人

から25人体制になりました。より多くの教職員が携わる

ことで、全学の男女共同参画がさらに推進するよう協力してまいります。

どうぞよろしくご協力致します。

人間発達科学部	秋月 有紀
経済学部	松山 淳
大学院理工学研究部(理学)	倉光 英樹
大学院理工学研究部(工学)	高野 真希
大学院医学薬学研究部(医学)	坪田 恵子
大学院医学薬学研究部(医学) 附属病院	小澤 龍彦
	米田 哲

新しいワーキンググループの紹介

今年度の男女共同参画推進体制の変更とともに、

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」

事業を推進するため、新しくワーキンググループを拡充

しました。「意識を変える」、「組織を変える」、「環境を変える」という3つの柱に沿って、男女共同参画推進委員会

の全委員がWGに所属し、本事業を展開する他、全学の

男女共同参画を推進してまいります。

ワーキンググループ(WG)一覧

- 1) ニュースレターWG(年間3回発行予定)
- 2) 啓発事業(下記5つのWGで構成)
 - WG① 啓発講演会、シンポジウム、セミナー、報告会等の企画、進行
 - WG② 学内公募関連
 - WG③ すそ野拡大(Smart Café等)
 - WG④ 学童保育等
 - WG⑤ 女性研究者パネル・パンフレット作成
- 3) 数値管理(人材バンク)WG
男女共同参画の現状分析、評価、改善を把握するための数値管理の題材等の検討
- 4) アンケートWG
本学の男女共同参画に関する課題を可視化するために教職員・学生等を対象としたワーク・ライフ・バランスに関する調査

活動報告

ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム

「富山大学女性研究者支援の試み ー各部署の現状と挑戦ー <前編>を開催しました

プログラム

総合司会: 富銘 一文(男女共同参画推進委員会委員)
開会挨拶: 遠藤 俊郎(学長)

第1部 基調講演

「202030をめざして ~女性も輝く時代の男女共同参画~」

- 座長: 鈴木 基史(理事)
- 講師: 瀧原 圭子氏(大阪大学 総長特命補佐)

第2部 パネルディスカッション

「男女共同参画 ー各部署の現状と挑戦」

- 司会: 二階堂 敏雄(理事)、呉人 恵(男女共同参画推進室副室長)
- ① 経済学部 中村 和之(学部長)、神山 智美(准教授)
- ② 工学部 中島 一樹(副学部長)、松島 紀佐(教授)
- ③ 和漢医学総合研究所 門脇 真(研究所長)、東田 千尋(准教授)
- ④ 医学部・附属病院 齋藤 滋(病院長)、米田 徳子(助教)

閉会挨拶: 市田 蓓子(男女共同参画担当 学長補佐)



- 講師: 瀧原 圭子氏(大阪大学 総長特命補佐)
- 日時: 平成28年9月21日(水) 17:30~19:30
- 会場: 五福キャンパス(共通教育棟D11講義室) 杉谷キャンパス(看護学科研究棟11講義室) 高岡キャンパス(H棟 CALL教室) ※杉谷・高岡キャンパス同時配信
- 対象: 本学の教職員、一般
- 参加者: 約70名

編集後記

秋たけなわの今号は、新しく男女共同参画推進委員会委員に就任した3人の委員を迎え、新たな視点で編集に取り組みました。読者の皆様にお楽しみいただけたら、編集委員一同大変嬉しく思います。皆様からのご意見やご感想などお気軽に推進室にお寄せください。お待ち申し上げます。

富山大学男女共同参画推進室News Letter編集メンバー

南村 有輝子 松山 淳 高野 真希 坪田 恵子 飯野 るみ子 竹岡 美樹 甲斐田 直 小川 友美



活動報告

平成28年度 男女共同参画チーフ・オフィサー (CGEO=Chief Gender Equality Officer)を設置し「男女共同参画推進事業所」認証が継続されました

富山県は、平成14年度から男女共同参画チーフ・オフィサーを核とした取組を行っている事業所を「男女共同参画推進事業所」として認証することを通じて、男女共同参画を推進しています。本学の今までの取組が評価され、7月29日付で平成31年7月31日までの3年間、標記事業所の認証を受けました。

サンフォルテ フェスティバル2016に参加しました

- 期間:平成28年6月25日(土)～7月1日(金)
- 会場:富山県民共生センター サンフォルテ
- 内容:パネル展示「Frontiers, Dreams, and Challenges 2016 未知に挑む女性研究者たち in 富山大学」と題して第一線で活躍する本学の女性研究者の研究内容について紹介しました。



第3回介護セミナー「若年介護者への社会的支援のあり方」を開催しました

- 講師:松崎 実穂氏 (国際基督教大学ジェンダー研究センター 研究所助手)
- パネリスト:武田 卓也氏(大阪人間科学大学 准教授・介護福祉士)
- 日時:平成28年7月26日(火) 15:00～16:30
- 会場:五福キャンパス 学生会館2階多目的利用室
- 対象:本学の教職員、学生、一般
- 参加者:18名
- 内容:第1部:基調講演「若者の人生における仕事と介護」
第2部:座談会「介護を担った若者は、どう生きていけばよいのか?」



Smart Café

本年度のSmart Caféでは、第一線で活躍する富山大学の各部署の女性研究者から、研究者を志すきっかけや仕事と家庭の両立、海外留学、ライフスタイルなどのお話を伺っています。

第1回「Smart Café in 医学部」

医学部では3名の女性研究者が「海外留学」や「専門医」について、日本と海外とのワークスタイルの違いや、子育てと研究を両立するための心構えなどをご自身の経験を交えて具体的にお話いただきました。身近なロールモデルの体験談に、みな熱心に聞き入っていました。



- 講師:石井 陽子先生(医学部 准教授)
川崎 裕香子先生(附属病院 診療助手)
伊藤 実香先生(附属病院 非常勤医師)
- 日時:平成28年6月16日(木) 17:30～18:30
- 会場:杉谷キャンパス 臨床講義室(2)
- 対象:本学の学生(学部生・大学院生)、研修医
- 参加者:37名

第2回「Smart Café in 工学部」

工学部では①女性研究者のお話、②就職担当の先生からのお話、③座談会の3部構成で開催し、女子学生のキャリアを考える場となりました。参加した女子学生からは、「進路について考え直すよい機会となった。」「将来のことを真剣に考えようと思った。」といった声が聞かれました。



- 講師:高野 真希先生(工学部 生命工学科 助手)
加賀谷 重浩先生(工学部 環境応用化学科 教授)
松島 紀佐先生(工学部 機械知能システム工学科 教授)
中島 一樹先生(工学部 電気電子システム工学科 教授)
- 日時:平成28年6月27日(月)・28日(火) 12:05～12:55
- 会場:五福キャンパス 総合教育研究棟1階11番教室
- 対象:6/27:工学部・化学生物系的女子学生(生命、環境)
6/28:工学部・数物系的女子学生(電気電子、知能情報、材料、機械)
- 参加者:28名(6/27)、29名(6/28)

第3回「Smart Café in 薬学部・和漢研」

第3回は薬学部と和漢医薬学総合研究所との合同開催で、アメリカとスイスに短期留学された2人の女性研究者にお話いただきました。短い留学期間ながらも積極的に行動し、幅広い人脈づくりや次のチャンスに繋げる行動力などポジティブな姿勢に惹かれ、多くの質問が寄せられました。

- 講師:糸 美智子先生(和漢医薬学総合研究所 助教)
河崎 優希先生(薬学部 助教)
- 日時:平成28年10月7日(金) 14:00～16:00
- 会場:杉谷キャンパス 薬学部7階セミナー室8
- 対象:本学の学生(学部生・大学院生)、教員、職員、研究員
- 参加者:34名



夏季学童保育及びサマーわくわく教室を開催しました

- 開催日:五福キャンパス 平成28年7月25日(月)～7月29日(金)
杉谷キャンパス 平成28年8月1日(月)～8月5日(金)
- 会場:五福キャンパス 黒田講堂会議室、杉谷キャンパス 医学部看護学科研究棟 3F研修室
- 対象:本学の教職員の子(小学生)



第8回夏季学童保育を開催しました。今年も本学教職員のお子さん(小学生)を対象とし、五福キャンパスは7月25日(月)から7月29日(金)の5日間、杉谷キャンパスは8月1日(月)から8月5日(金)の5日間、学童保育を開催しました。10日間で、52世帯、62人の児童が、のべ245人参加しました。毎年恒例となっている本学教員によるサマーわくわく教室は、富山大学ならではの盛りだくさんのテーマで、子供たちの関心を広げてくれました。ご協力くださいました皆様ありがとうございました。水島先生は本学の学童保育開始時からこれまで通算7回ご協力いただきました。また、今年も、小児科訪問サークルの学生さんも2つのサマーわくわく教室を実施してくれました。学童保育を利用した教職員からは、「子供も楽しんでおり、安心して預けることができました。」「工作したものを嬉しそうに持って帰ってきました。」など好評をいただきました。



①「だれももたない まほうじん」
東川 和夫先生
(富山大学名誉教授)



②「科学マジックを体験しよう」
春木 孝之先生
(工学部 知能情報工学科 講師)



③「ソーラーロボットづくりで学ぶ夏休み工作体験」
戸田 英樹先生
(工学部 電気電子システム工学科 講師(現准教授))



④「回るおもちゃを作ろう」
水島 俊雄先生
(理学部 物理学 准教授)



⑤「身近な科学で遊ぼう」
成行 泰裕先生/片岡 弘先生
(人間発達科学部 人間環境システム学科 准教授/
人間発達科学部 人間環境システム学科 教授)



⑥「ぬいぐるみ病院」
小児科訪問サークル 青い鳥



⑦「プラネタリウムを作ろう」
小児科訪問サークル 青い鳥



⑧「世界のお薬を見てみよう」
伏見 裕利先生
(和漢医薬学総合研究所 民族薬物研究(民族薬物資料室) 特命准教授)

知
つ
て
る
?

その
意
味

今注
目の
ことば

第8回 小1の壁

小1の壁とは子供の小学校入学時に、共働き家庭が直面する様々な問題のことを示します。保育園では遅い時間まで預けることが可能ですが、小学校では授業が終わる14時頃からの預け先を別に探さなくてはなりません。学童保育がある場合でも預かり時間が18時までである所も多く、保育園よりも預かり時間が短くなります。更に、平日の学校行事への参加等の負担が増加したり、入学を機に企業での時短勤務制がなくなる場合もあります。こういった一連の問題により、多くの親が働き方の方向転換を迫られるのが現状です。そして、子供は生活リズムが大幅に変わり、家で長い時間一人で過ごすこととなります。子供にとって安全面でも精神面でも負担が大きくなり、それを支える保護者への支援がより必要となっていきます。

